

最近経験された野ネズミ類の分布・生息に関わる事例

浅川満彦

(酪農学園大学獣医学類医動物学/同・元野生動物医学センター)

2023 月 10 月以来、演者が勤務する大学事務棟および研究棟内でアカネズミ属 2 種が捕獲される事例が生じている。確かに、現場は道立自然公園に指定される野幌森林公園に近接するものの、約 45 年となる在学・勤続期間中、多くの人々が利用している建屋内でこのような野ネズミが捕獲されたことは無かった。また、数年前には、札幌市内の食品店舗内でタイリクヤチネズミ（エゾヤチネズミ）が、商品の飲料物が収納された箱中から見つかった事例も経験した。さらに、本州の研究者から、野ネズミ類が盛んに寄り付いていたであろう空き家を住宅として使用したところ、こういった小動物が暫時跋扈したことも教えて頂いた。以上のように、演者が研究を開始した 1980 年代初頭と比較すると、野ネズミ類/家ネズミ類間の垣根がずいぶん低くなった印象がある。今後、全国的に過疎化する一方、生活志向の多様化も追い風に、空き家再利用では、野ネズミ類の衛生動物化を予感させる。しかし、無用な恐怖心を煽り立てることになってはいけない。確かに、たとえば、アカネズミでは感染症面で問題点が指摘されるものの、野ネズミ類本来の生息環境に戻るように対策を講じれば、家ネズミ類に比べればあまり大きな問題に発展することは無いと楽観もしている。いや、その前に、野ネズミ類自体のことを広く知ってもらい、彼らをいたずらに敵視することを防ぐのが先であろう。その一環として、今回、若干の話題提供を行う。